

## 上伊那若者会議で出された主な意見

上伊那地域振興局企画振興課

令和4年8月24日・25日の2日間にかけて開催しました「上伊那若者会議」において、地域で活躍されている若手の皆様から出された、めざすべき上伊那地域の将来像や取組のアイデア等を分野ごとにまとめました。

### 地域づくり

- ・人口減少により様々なものが効率化されているが、縮小だけではなく、投資も必要。ただ効率化を進めるのではなく、その先に何かがあるのかを考えること。
- ・地域外からの投資や参入を積極的に呼び込み、受け入れていくことが大事。
- ・地域のことだけを考えるのではなく、一度外の世界に目を向け、最先端を知ったうえで、改めて地域を見つめなおすことが大事。この地域にも意外と最先端があるかも。
- ・行政がPRする「豊かな自然」は全国どこにでもある。では、ほかの地域とどこで差別化するかといえば、やはり人。面白い人がハブとなり、面白い人を引き寄せる。上伊那はやる気のある人が多く、活力がある。
- ・若者の活動をとめない社会づくりが必要。若者世代が地域を引っ張っていく。チャレンジすればできるという空気感があってほしい。
- ・地域の情報発信力が低く、そもそも関心も低い。効果的な情報発信にはデザインの力が重要であるが、デザイナーに依頼することに敷居の高さを感じている人が多い。地域とデザイナーをマッチングできる仕組みなど、情報発信しやすい環境があるとよい。
- ・上伊那に住んで、通学中の子どもたちが自然と挨拶してくれることに感動した。こういう何気ない日常の中に、地域の人が気づいていない地域の魅力が隠れている。
- ・医療・介護の職員の待遇改善を進めるとともに、AI導入等により人材不足を補うことが必要。高齢になっても健康で安心な生活を送り、最期は死に方（在宅）も自由に選べる地域であるとよい。
- ・都市の広域化を防ぐインセンティブが必要。森林・自然と暮らしが共存した、環境共生先進地域づくり。豊かな自然や農地を次世代に残していく。
- ・移住者が地域を盛り上げようと頑張っているのが現状。地元民にも、もう少し地域のために動いてほしいと感じる。
- ・自分のふるさとを自慢できる地域であってほしい。そのためにオシャレな上伊那であってほしいし、そういう発信をしていく必要がある。
- ・アパートやマンションが少なく、管理状況も良くない。また、空き家バンクはあるものの、空き家の情報が入手しにくいと感じる。住環境が都会と遜色なくなれば、移住者にとって魅力。
- ・上伊那はアートに触れる場所が少なく、アートに対する敷居が高いと感じる。アートやものづくりがもっと身近になり、大量生産品ではなくオリジナル品を選び、長く使う生活が広がるとよい。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今住んでいる人が楽しくないと、若者も帰ってこない。選ばれない。</li> <li>・どこでも、だれでも、いつでも学べる場が必要。</li> <li>・ワーケーション、二拠点生活者の創造のため、例えば新宿～伊那の高速道路を無料化してはどうか。地域に滞在する人が増えることは、宿泊業等の活性化にも繋がる。</li> </ul>
<p><b>交流・つながり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人と人のつながりが大切。課題・目標を共有し、協働して、みんなで“意味”をつくっていける地域であるとよい。</li> <li>・多様な人々が集い、発表し、交流できる心地よい場が必要。業種や世代、立場の垣根を超えた交流が、新しい価値の創出や、視野の拡大、技術やモチベーションの向上につながる。地縁・血縁から、知縁へ。</li> <li>・世代間交流の促進を。子どもたちにとって家族や学校以外に地域に頼れる大人がいるということは大切であり、そのためには地域で活躍する大人の姿を見せることが大事。また、高齢者の生きがいにもつながる。</li> <li>・朝市やマルシェなど、普段接しない人と話す機会や、日常で触れることのない様々なモノを知る機会があるとよい。</li> </ul>
<p><b>多様性・柔軟性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元に戻ってきて正直何もなかったが、なければここにしかないものを作ろうと思った。新しいものを受け入れる空気がほしい。</li> <li>・「余裕・余白」がキーワード。仕事はもちろん生活や地域でも、ゆとりがあることで、変化に対応できる柔軟性が生まれる。</li> <li>・田舎はいろいろなものが偏る。多様性に理解がないと、少数派の人はコミュニティが作れず、入れない・帰ってこれない。コミュニティに文化や価値観の異なる人が入ってきたときに、抵抗を抱くのではなく、むしろ変化を楽しめるようになることが大事。自分の価値観を受け止めてくれる地域がこれからは選ばれる。</li> <li>・核家族化が進み、働き方や暮らし方が多様化している今、持続可能なコミュニティにしていくためには、役や行事などのあり方も変えていく必要がある。そのためには、ほかの人のことを考えられる想像力が必要。</li> </ul>
<p><b>しごと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が、好きなことを仕事にできる、自己実現ができる場所であるとよい。消去法でキャリアを決めない、選択肢の多い地域に。</li> <li>・ビジョンのある会社が少ない。おそらく社長も分かってないのではないか。ビジョンがある会社は発展するし、ビジョンのない組織には若者は来ない。</li> <li>・周囲の子育てへの理解や、産休・育休取得後も変わらず働けることなど、女性が就職しやすい、働きやすい職場が必要。都会であたりまえの環境が移住先の上伊那にはない。</li> <li>・自分が苦勞してきたことを、次の世代には残したくない。新しい手法を取り入れるなど、自分の世代で変えていきたい。</li> <li>・第二次産業の従事者が多く上伊那＝製造業というイメージが強いが、その分、誰も手を</li> </ul>

付けていない分野や、すき間産業があると思うので、意外と起業のチャンスが多いのではないか。

- ・フリーランスが気軽に長時間使える施設が少ない。カフェとコワーキングスペースが一緒になった施設があるといい。
- ・上伊那には有名な企業が少ないが、よく見ればいい企業、魅力ある企業はたくさんある。有名企業以外にも積極的な情報発信を。
- ・若手起業家や、フリーランス、地元企業などがマッチングし、業界を超えてコラボレーションできる環境整備を。
- ・家庭や趣味との両立ができる、余裕のある働き方の実現。今の半分の労働時間で生活できるのが理想。
- ・農林業をローカルの花形産業に。イメージアップが重要。
- ・同世代の人と農業がしたいがなかなか故郷に戻ってこないのが現状。農家や保育士などは収入が低く、働き手の志ややりがいに負担が行き過ぎている。社会の歪みであり、本気で対策を考えなくてはいけない。
- ・上伊那は農業を行うのに不足している要素が少なく、様々な作物が作れるといったメリットがある。また、ただ作物を作るだけではなく、観光や農業体験といった他者とのかわりや、加工・販売など、農業を通して様々な世界につながることも農業の面白さ。そうした魅力を若い人や移住希望者へ情報発信していく。
- ・気候変動に応じた作物育成のインセンティブが必要。
- ・有害鳥獣が畑を荒らす問題がある。駆除するだけでなく、ジビエ等で有効活用するなどの取組が必要。

## 教育・子育て

- ・子どもがのびのびとできる学校が増えてほしい。小学校は特色のある学校もあるが、中学校になると、そういった個性が際立った学校がなくなってしまう。小学校卒業以降も、継続して自由な教育を受けられる環境の整備を進めてほしい。
- ・現状では先生が多忙すぎて、手が回っていない。教育費の増加や、保護者との連絡手段の電子化等、教員の負担軽減が必要。
- ・伊那市では学区外からの通学もできるが、現実的には送迎等の関係もあり、難しい。スクールバスによる移動手段の充実等、多様な選択肢を選べる教育環境であってほしい。
- ・子どもたちの多様な人との交流機会を増やすため、学校間の交流を活発にしてほしい。
- ・一度外に出た若者に上伊那に戻ってきてもらうには、原体験が重要。幼少期に上伊那地域でしか味わえない経験をしてもらえるようなイベントがあるといい。生まれ育ったこの地域の良さを、子どもたちに伝えていくことが大切。
- ・子どもたちが楽しい子ども時代を過ごせる環境づくりを。
- ・子どもたちが、室内で体を動かして安全に遊べる施設があるとよい。上伊那は雨が降ると何もできない。
- ・働く女性や起業した女性、シングルマザー等が子育てに困らない支援を。子育て世代を地域で助ける仕組みが必要。

<p><b>公共交通</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者だけでなく、妊婦や移住者など様々な人が使うことを想像した移動手段の確保が必要。移動手段があることで、どんな人でもやりたいことが実現できる。</li> <li>・都市部の住民はペーパードライバーや免許を持っていない人も多く、移住者や二拠点生活者、ワーケーションの受け入れには、公共交通の整備が非常に重要。市町村が運行する乗合タクシーなど、昔からの住民に対する利便性は上がっているが、移住者等の新しい住民にはハードルが高いと感じる。</li> <li>・移住者への運転免許取得費用の補助や、電動アシスト自転車の提供などの移住支援。</li> <li>・バスの運行時間が通学時間など住民ニーズに合っていない。運行時間の見直しを。</li> </ul>
<p><b>観光</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光で問われるのは地域の総合力。農業をはじめ、全産業が、業界の枠を超えて連携・コラボレーションしていくことが重要。それが「上伊那」のブランド化につながる。</li> <li>・今注目を集めている「リトリート」や、「マインドフルネス」は、自然豊かな上伊那が適地となるのではないか。</li> <li>・世界中を旅してまわったが、どの国でも長野県の風景を見せると皆その美しさに驚いた。日本の中で一番日本らしくないのが長野県の風景で、世界に通用する。</li> <li>・自然豊かで、気候（空気）もよいのが上伊那の魅力だが、現状ではうまくPRできていない。自然を利用したイベントの実施や、住民でもPRできるノウハウの普及（SNS活用術など）、魅力的な土産物の開発などが必要。</li> <li>・インバウンドには、地域の文化や歴史など、地域にもともとある暮らしをコンテンツにした生活観光がウケる。また、森や山など自然を好む人が多い。上伊那は今のままで十分勝負できる。素朴さとラグジュアリーの両立。</li> <li>・リニア開通後のインバウンドの受け入れについて、長野県へ来てからの交通機関の不便さが指摘されるが、そもそも欧米は移動に時間がかかるのが普通。日本に来るだけでも何時間もかけているわけで、大きなハンデにはならない。世界最先端の乗り物であるリニアが通ることは大きな強みとなる。</li> <li>・特に欧米の富裕層では登山の人气が高いが、現在、富士山では登山者数が飽和状態にあり、北アルプスも飽和しつつある中、次は中央アルプスが注目されるのではないかと考えている。</li> </ul>
<p><b>行政</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政はよくわからないもの、新しいものについては、話を聞いてくれないことがあった。行政こそ変化を恐れず、柔軟にクリエイティブな考えをもってほしい。</li> <li>・スマホアプリを活用した意見箱など、行政に地域の課題や意見を伝えやすい環境が必要。こうしたい、こうなるといいなど思うことがあっても敷居が高いと感じる。</li> <li>・行政は年度単位でなく複数年度で事業を考えてほしい。</li> <li>・チャレンジしたい「そのとき」に、応援してくれる行政であってほしい。手続きも住民目線で使いやすいものに。</li> </ul>

※取りまとめに当たり、同種の意見の統合・集約を行っております。